

平成十八年度

宮崎県地方史研究紀要

第三十三輯

宮崎県立図書館

## 序 文

宮崎県立図書館主催の「宮崎県地方史講座」は、昭和四十九年に開設され現在に至っています。

本年度で三十三輯しゅうを数える本研究紀要は、地方史講座に登壇された方々に発表、講演いただいた内容についての寄稿をお願いし、収録してきたものです。本年度まで、宮崎県の政治史や文学史、また、民俗など多方面にわたり、延べ二百六十九名の方々に登壇及び執筆いただきました。

本年度も、宮崎県の歴史や民俗を身近に感じていただきたいの思いから、「ふるさと再発見!」ときの流れに夢がふくらむ」というテーマを設け、四回の開催をいたしました。多数の方々を受講いただき、関係諸機関に対して心から御礼を申し上げます。

特に、県立図書館以外では延岡市でも開催いたしました。延岡市教育委員会及び地元史談会には多大な御支援をいただき、感謝の念に堪えません。

本年度の内容は、毛利泰之氏による「日向記に見る文禄・慶長の役」、永松敦氏による「新宮崎市内の文化財に関する新たな視点」、増田豪氏による「延岡藩における能楽」、中馬光久氏による「運動と健康づくり」です。いずれも本県の地方史の発展に大きく寄与する内容となっております。

今後とも、地方史講座が県民の皆様に一層親しまれ、多くの方々を受講していただくとともに、本研究紀要が、県内外の様々な分野で広く活用されることを願ってやみません。

平成十九年三月

宮崎県立図書館長 伊藤 惇 一

# 目次

一	日向記に見る文禄・慶長の役	毛利泰之
二	新宮崎市内の文化財に関する新たな視点	永松 敦
三	運動と健康づくり	中馬 光久
四	延岡藩における能楽（地方史講座資料）	増田 豪

※四につきましては、裏表紙よりご覧下さい。